

書道部門 作者コメント

タイトル	氏名	コメント
先駆開道	酒井 佑季	自分の将来に悩み続けていますが、子どもの幸福を第一に考え、子どもの教育に関わる道に進みたいとの思いでこの字を書きました。また、今回初めて造像記に挑戦しました。筆でシャープな字を書くことになかなか慣れず、夏の合宿では先生や先輩から多くのアドバイスをいただきながら作品と向き合いました。合宿期間を通して、書道の歴史に触れる機会にも恵まれ、より書道が好きになりました。
ありがとう	楠 歩未	私は創価大学に入学して、感謝をすることの大切さを改めて感じました。どんなに小さなことでもありがたいと言葉に出して伝えてくれた周りの人の励ましは本当に自分の原動力となりました。ここまで支えてくれた両親や友人、先輩方にたくさんの感謝の想いを込めて書きました。この言葉であるように感謝を口に出し、勇気の輪を広げていきたいです。
友	小城 萌生	地元の友達を想って書きました。
花	高橋 沙季	私は、古典が好きで昔の人の手紙を意味を調べながら書くことで内容を理解することができ、とても楽しく書きました。しかし、字が続いている部分もあり難しかったので、もっと勉強しようと思いました。
母校の精神	塚越 普	この一節は、私の高校では桜を人間一人ひとりの才能と捉えて校是とされてきました。楽しい事ばかりでなかった高校生活でしたが、深く印象に残っている一節です。書道部に入ったのを機に、この一節を自分の手で作品にして、自らの精神として留めたいと思い書きました。
我等が道	殿内 正代	書の道に勤しんできた身として、書の楽しさを更に感じ、伝えていければと思いました。
孟法師碑	松木 仁美	親孝行の美德・大切さを改めて感じながら書きました。
書譜	山口 愛花	私は高校の書道部に入部してから書譜を書き始め、何度も大会に挑戦してきました。そして今回は、高校3年間で培った力がどれ程のものなのか、そして新たな試みに挑戦したいと思い、細字で全紙を書くことを決意しました。今までの倍以上の時間をかけ、書いたことのない部分に苦戦もしました。それでも無事書き上げることができ、大きな達成感を得ることが出来ました。これからも自分の限界を超え、極めていきたいと思っています。
桜梅桃李	山下 良子	木簡という書体で桜梅桃李を表現しました。どの花にもそれぞれの良さがあり、輝く時期も違うという意味なので、自分も努力を重ね、いずれは満開の花を咲かせていきたいと思っています。
後継之志	石崎 広之	「後継」と「後続」とは異なるものであり、後方の安全地帯に身を置き、開拓の苦労も知らず、ただ後続く「後続」の人に、「後継」の責任を果たすことなどできようはずがない。「後継の人」とは、勝利の旗を打ち立てる「先駆の人」でなければならない。この事から私は、今年閉寮する友光寮の精神を受け継いだ上で、先駆者として走りきる決意を表しています。
厳愛	伊藤 萌々香	新・人間革命 25巻を読んでいる時に、この言葉に出会いました。私は厳しい愛をもった先輩に出会えたお陰で成長できました。その先輩に恩返しするため、自分を律し目の前の1人のためにどこまでも思いやれる自分になりたいと思い、厳愛という文字を書かせていただきました。

書道部門 作者コメント

師子 一 日蓮大聖人御書より	川口 瑤佳	寮でひまわり委員として2年目残らせていただいている中で、寮生の葛藤や挑戦に挑戦を重ねる姿を見て、初心を忘れている自分に気づきました。自分は今、創大という恵まれた環境の中にいます。学ぼうと思えばいつでも学べる場所で、頑張ろうと思えばそれを応援してくれる場所にいます。それと同時にたくさんの悩みを抱える場所でもあります。しかし、そんな悩みに負けないように自分の中に確固たる軸を持つことで、変化や周りの意見を恐れずにこれからもっと精進していきたい、成長して家族や周りの友人たちに何か一つでも多く語り、幸福の種を蒔いていける自分になっていくんだという思いを込めました。
青春之劇	岸 杏香	この創価大学で日々学び沢山の貴重な経験をさせていただけていることへの感謝と、労苦をいとわずにこの青春時代の今しかできないことに挑戦し続けていくという決意を込めて書きました。
「金の橋」は永遠に	谷口 梨乃	今回は創立者の漢詩を隷書体の楊峴の書を基に書かせて頂きました。楊峴の書は線や太さの強弱が特徴的で筆遣いに苦戦しましたが、一つ一つの字に、創立者の想い、そして、創立者が築いてこられた、“日中友好の「金の橋」は永遠に！”との想いを込めて制作させて頂きました。私の作品を通して、作品を見てくださった方々が、創立者が築いてくださった日中友好の絆や私の創芸展に対する力強い思いを感じて頂けたら幸いです。
勝利之道	森泉 広志	創立50周年の勝利への道を切り拓いて参ります。
江雪	山城 英之	渋い題材だったので、渋くするのがとても難しかったです。
楽静多高致	和田 由美子	漢語の意味を理解しながら、洗練された行書作品となるように仕上げました。元号が変わり、二十歳を迎えたこの年に、時代の変化とともに大人へと成長していく自分を見つめながら挑んだ作品です。
誠心誠意	岩淵 優太	私が所属している学生自治会の諸活動に対し、残りの半年間を妥協することなく活動に取り組むという思い込めてこの字を書きました。
大楠公	鎌田 正行	第30回展という節目の展覧会に創立者への誓いを込めて書きました。
汪倫に贈る	川中 純玲	大学生活を通して接してきた友達や書道部の人、昔からの友達などに感謝の気持ちを込めて作りました。訪中に向けて練習したことを思い出しながら書きました。
青春譜	窪田 美穂	“創価芸術展の意義と自身の成長を重ね合わせたとき、「青春譜」という言葉が浮かんだ。登るべき山は自分が一番知っている。勝利の頂に到達するには、何事にも揺るがない信念と周りをも照らしていける朗らかさが欠かせない。強く優しい、そういった人になりたい。”ありのままの自分と誓いを込めて書きました。
行路難	近藤 菜々子	困難が続いていても必ず追い風が吹くときがくるから、その時まで踏ん張って、風が吹いた時には風に乗って前進していこう、という希望に満ちた詩だと思っています。私は大学生活も後半戦を迎え、今後、進路や人間関係など色々なことに悩むこともあるだろうと思います。しかし、そんな時こそ希望を見失わず、自分自身と向き合って、やるべきことをしっかりとやり抜ける、そんな人になりたいという想いを込めました。

書道部門 作者コメント

英知	澤野 裕二	私は英知を磨くために、現在留学に行っております。何のために学ぶのか。身に付けた英知は、誰のために使うのか。創立者は、民衆の幸福のためであると述べられています。それを自分自身で感じてくるとともに、誓願の意を込めました。
生き抜く道	円谷 貴美	私にとって寮生活とは人間革命の鍛錬の場であり、絶対的幸福境涯の確立をできる場であると確信しています。6年間の寮生活の最後である今年度は特に、困難の連続でした。しかし、様々な姿となって現れてくれた善知識の友には互いの人間革命のチャンスをたくさんくれ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような使命を下された創立者池田先生にその感謝と、世界一の寮を厳護していくとの決意を作品に込めました。
自然への愛	戸張 寛子	今年は第30回展であり、創価芸術展の原点回帰として、テーマが源流となったので、自分が大学で学びたいことを決めるきっかけとなった、ジブリ映画のもののけ姫の劇中歌の歌詞を書きました。人間が自然に歩み寄っていくには、人間が1人1人が意識をすることから始まる。お互いが尊重していき、環境をつくることに希望を忘れず、これからは勉学に励んでいきます。自然への愛は木蓮の花言葉です。
世界の創価幼稚園 3つの指針	萩原 歩香	この指針は、2008年に創立者が世界6ヶ国にある創価幼稚園に贈られました。”最も大切な幸せへの道”を示して下さっており、園児だけでなく私にとっても人生において大切な指針であると考え、大切にしている言葉です。これからはこの指針を胸に感謝と成長の日々を送っていくとの決意を込めて書きました。
父子の短歌二首	山本 哲也	私は今親元を離れて暮らしています。力仕事をして家に帰るたびに、あるだけの飯を食い散らかしてそのまま寝ていました。そんな日々の中で、幼少期に父親によく言われたことを思い出して詠みました。
万葉集 ～織姫の胸の 高まり～	秋山 正彦	自分の地元、交野は織姫と彦星の発祥の地であり、その内容が示されている万葉集から一節いい和歌を取らせていただきました。
高下在心	伊澤 大地	如何なる状況だろうと他人に何を言われても自分にとって後悔のない人生にしていきたいという今後の指針を、一見魅力の伝わりづらいが自分が大好きな篆書という書体に込めて書かせていただきました。
想像x創造＝想造	泉本 晴美	最高学年になった今、改めて創価大学の建学の精神を見直した。技術が飛躍的に発達しグローバル化が進む多様な世界で、技術だけでは補えない人間の”想い”や多様な社会を受け入れるための他者への”想像力”の必要性を建学の精神から読み取った。その想像力から新しい価値を”創造”する、つまり想いながら造ることがこれから求められるのではないのだろうか。3つの”そうぞう”を作品から読めるように文字の位置などを工夫した。
笑顔	井上 美翔	私が今まで1番大切にしてきたことが「笑顔」です。また、下に書いた創立者の御指導に今まで何度も救われました。笑顔でいる人は強いと思います。その強さを笑顔の2文字に表しました。

書道部門 作者コメント

爛漫	岩崎 美華	学生生活最後の集大成として書きました。創価大学で学べたこと、出会えた多くの縁、これまで支えて下さった家族や友人、感謝の想いがいっぱいの創大への想いを込めて書きました。「爛漫」には、光り輝くさまという意味が含まれます。様々な経験をし、泣いたり笑ったりしたかけがいのない日々を過ごすことができたからこそ、この作品を書くことが出来ました。
臥龍	川上 伸春	我々一人一人が逸材であり、大学で何を学ぶのか、社会に出てからどう活躍するのかを改めて考え、自己を見つめ直すことができるように、この題材を選びました。また、私は1年生の頃の本展にて、諸葛孔明の出師表の一節を書いたので、成長を感じるためにも、劉備に仕える前の諸葛孔明の呼び名であるこの題材を選びました。
臨 張猛龍碑	多賀 勇一	1年ぶりに書道作品を作り上げました。文字のバランスを取るのが難しかったですが、力強さの点だけは表現しようと努力しました。
桜	中谷 弘美	この字には3つの意味があります。1つ目は感謝です。この4年間の感謝を創立者、家族、友人の他、全ての方々に届けようと思い、書きました。2つ目は秋桜です。私は2年間秋桜寮でたくさんの留学生と共に生活をしました。この原点を一生忘れないという気持ちを込めました。3つ目は箏曲部です。創立者は今年、私たちが演奏した国立劇場の前にある桜を通して何度も激励して下さいました。あの時の日々を思い出しながら書きました。
顔真卿祭姪文稿	菱川 楓	顔真卿は、書の道を目指す時と決めた時からずっと好きな書家です。その顔真卿の作品の中でも祭姪文稿は世の中の不条理に対する悔しさ、怒り、そして哀しみが全面にあらわされています。私は今回で最後の出品となり、卒業しますが、5年間の大学生生活で私自身もこの思いに似た感情に苛まれることが多々ありました。そのため、この作品をもって私の大学生生活の集大成とすることを決め、5年の思いをこの作品にぶつけ、閉じ込めました。
第46回入学式 創立者メッセージ	肘井 大地	出品者として参加できる最後の創芸展で、この4年間の大学生生活の感謝の思いを作品にしたいと考えました。その中で、様々な人に感謝の気持ちでいっぱいですが、自分がこの大学に來れた事がすべてのきっかけであると思い、このメッセージを選びました。
袁枚詩	藤本 果歩	創価大学で過ごした学生生活では数え切れないほどの思い出ができました。楽しかったこと、大変だったこと、喜んだこと、悔しかったこと、これらの思い出は何十年後になっても忘れることのない宝です。共に過ごした仲間との時間をこれから先も大切に残したいと思いを持って、この詩を書きました。
陶淵明詩	湯寄野 春菜	最後の創芸展なので自分が納得するまで書きました。去年より行数を増やして挑みます。やりがいがあり、書道の楽しさを実感できた作品でした。
臨 西狹頌	吉田 昌美	大学生生活最後の創芸展となるので、私の原点である書体・隸書の臨書をしました。西狹頌の特徴である真四角の文字を胴切り（正方形）の紙を用いることでより活かせるように工夫しました。篆体による変わった字も見られるので、面白さを感じていただけると嬉しいです。

書道部門 作者コメント

無限の可能性	吉原 直美	自身にとっては最後の創芸作品になるので、これからの人生の中で、大切にしたい言葉を作品にしました。自分にも、子どもたちにも、そしてすべての人に無限の可能性があるのだということを忘れないようにしたい、という思いを込め、書きあげました。
王維詩「過香積寺」	岡 璃奈	木簡は約2000年前の中国、まだ紙が発明されてなかったため代わりに木片や竹片を使って人々は文字を書いていたのです。私は今回初めて木簡の創作に挑戦しました。これまでは男性的な力強く鋭い隸書を書いてましたが従来の自分とは一変して大人の女性のような気品、優雅さ、しなやかさを文字に表しました。この作品は完全体ではなくまだ最初の段階なので、これからもっと自分の書を追求していきます。
波光海月を揺かし 星影城楼に入る	川西 智恵	綺麗な情景が頭の中で想像できるような詩を選んで書きました。字のバランスや流れを景色を浮かべながら見て貰えると嬉しいです。
桜梅桃李	竹下 暁子	この、創価の学び舎で一年半学び、寮生活をする中で本当に様々な人に出逢い、刺激を受けました。人と比べて焦る事、悩む事も多々ありましたが、そんな時桜梅桃李という言葉思い出し、自分は自分らしく花を咲かせていけばいいという事を改めて知りました。人とくらべるのではなく、自分の今いる場所で精一杯頑張ることの大切さを伝えられたらと思い、この言葉を書かせていただきました。
タゴール「選詩集」 所蔵「私の誕生日の 器の中に」より	杉本 久吉	
百花繚乱 ～創立者 芸術頌より	吉田 悟	
豪毅	高橋 誠	